曽屋高新聞

発行
2017年12月20日

秦野曽屋高校
新聞委員会
秦野市曽屋3613-1

TEL
0463(82)4000

曽屋充 ■ボクは曽屋に恋をした 秋輝祭

平成二十九年度秋輝祭が行われました。日程は九月一日（金）に校内発表、九月二日（土）に一般公開の二日間で開催され、一日目二日目を合わせてとても賑わっていました。クラスでの出し物については、一・二年生は各クラスで作成した劇や映画、展示など、三年生は、ベビーカステラやポップコーン、小籠包など様々な模擬店を出店しました。まず、今年が初めての秋輝祭となった一年生の出し物は、劇が多かったように感じます。高校生活初の文化祭は、決め事や役割分担、夏休み中の準備についてなど全てにおいてスムーズに行うことが難しかったと思います。秋輝祭当日が近づくにつれ、焦りが感じられましたが本番では各クラスが充実した楽しい時間を過ごすことができたと思います。一方、二年生は一度経験している分、一年生とは違い、余裕を待ってテキパキと準備が行えたのではないかと思います。今回で二度目となった秋輝祭では、劇や映画などに集中していた一年生より、レパートリーが増え、迷路や脱出ゲーム、ゲーム屋台などの面白い出し物がたくさんありました。準備期間に味わった苦労の分楽しむことができたと思います。最後に、今回の秋輝祭が高校生活最後の文化祭となった三年生は一・二年生とは違い模擬店を出店しました。それだけではなく、看板やお店のデザインも凝っていて三年生らしく素晴らしいものになっていました。今年で最後の秋輝祭ということもあり、各クラス気合が入っていました。また、クラスの出し物の他には吹奏楽部や軽音楽部など各部の成果発表、特設ステージでのSOYAステなどの有志で行う発表、PTAをはじめとする保護者の方々による模擬店もありました。各部発表では、今までの練習の成果を存分に発揮できたのではないかと思います。そして、保護者の方を含め、PTAの方々には忙しいなか、時間を割いてくださり大変お世話になりました。秋輝祭本番を楽しく迎えられたのは、夏休み前から行った準備のおかげです。三年生の皆さんは、最後の秋輝祭、楽しめましたか？一・二年生は、今回の反省を活かし来年も気合を入れて頑張りましょう！

PRボード

今回ＰＲボードでは、私たちのクラスがどんな出し物をするのかをたくさんの方によく知って、興味を持ってもらえるよう時間をかけて丁寧に作成しました。

作成するにあたり、デザインはクラスで出た案を元にしました。一番目立たせたい文字の部分を黒色で、背景を明るい色で塗ったりよりインパクトを出すために立体的にするなど工夫をしました。

文字の配置については、周りの仲間と意見を出し合い協力して完成させることが出来ました。

完成した時は、大きな達成感を感じ、秋輝祭に対しての気持ちも増し本気モードになれたようにも感じました。

また、どのクラスのＰＲボードも、熱意がこもった素敵な作品で、見たときに「ここを見に行きたい！楽しそう！」と思うものばかりでした。

多くの時間をかけての作成でしたが、最優秀賞になれてうれしかったです。

ありがとうございました。

模擬店

文化祭の模擬店について、三年一組の方にインタビューしました。

Q．当日の様子は？

A．とても多くの人が来てくれて、大変でしたが無事完売してよかったです。

Q．成功点と反省点を教えてください。

A．成功点は、完売ができたこと、皆で楽しくできたことです。反省点は、計画的に準備をすることができず、当日スムーズに動くことができなかったことです。

Q．個人的な満足度は？

A．百二十%です。

Q．最後に、次の三年生に向けてアドバイスをお願いします。

A．皆で協力して、計画的に準備を進めていった方がいいと思います。頑張ってください。

ありがとうございました。

今年の模擬店は、様々な種類の食べ物が並び、とても賑わっていました。来年も各クラスの雰囲気に合った模擬店を楽しみにしています。卒業生の皆様もぜひ遊びにいらしてください!!お待ちしています!!

1年ステージ

一年初の文化祭が今年の秋輝祭で一年一組は、「逆転白雪姫」をやりました。クラスの内装はすべての机を窓際に寄せてステージを作り、椅子を客席として使用しました。外装では、入り口にリンゴ、出口側に木の門を作り、白雪姫の世界観を創り出しました。

今回の劇は、ただの白雪姫ではなく、逆転白雪姫ということで演じる役者を男女逆転にしました。台本も原作を題材に一組オリジナルの内容にしました。

初めての高校の文化祭は一度文化祭を体験している二・三年生とは違い、劇の内容の決定・企画がすばやく決まったものの、夏休みから始まった準備、練習は中々メンバーが集まることができず、秋輝祭本番まで焦りがある印象が強くありました。

一日目は校内発表ということもあり、生徒や先生が観に来ることが多かったです。

それに反して二日目は客席が足りなくなるぐらい、他校の生徒と地元の方々が観に来て下さいました。クラスの人たちも劇は多少進行が危うくなりましたが来てくれた人たちが笑顔で観て下さったので自分たちも楽しく充実した時間を過ごすこと出来たと思います。

生徒会新役員の抱負

新生徒会の会長と副会長についていろいろインタビューをしました！

新生徒会長の関仁実さんと新副会長の田中力斗さんに次の質問に答えていただきました。

Q．生徒会に入った理由をおしえて下さい！

A、会長

「私は中学三年生の時、一人で行動が出来ないタイプの人間でした。しかし、曽屋高校の学校説明会の時、不安しかない私を生徒会の方々が和らげてくれて、その時に生徒会に入ろう！と、思ったからです。」

副会長

「私は中学の時にも生徒会に入っており、仕事にやりがいを感じたので高校でも続けたいと思ったからです。」

Q、これから行っていきたい行事について意気込みを！

A、会長

「曽屋高すべての行事を全力で企画、運営をし、反省を活かしてより良い行事を作り上げます！。」

副会長

「来年度、体育祭、文化祭は自分たちが引っ張っていく立場になるので頑張っていきたいと思います。」

Q、全校生徒へメッセージを！

A、「生徒会の活動は皆さんの協力が不可欠です！！今後ともよろしくお願いします！。」

SOYAフェス

地域に開かれ、地域と共にある学校づくりを目指すと同時に、学校教育計画の主な方策である生徒、職員共に年一回ボランティア活動を推進するという目標を達成するために始まったこの学校行事は、今年度で二年目を迎えました。地域の方々を対象とする公開講座と、中学生を対象とする部活動体験の二本柱で構成されており、今年は十月二十一日の土曜日に開催されました。当日は、接近する台風の影響で朝から雨がふるあいにくの天気にも関わらず、多数の来校者に恵まれて、成功裡のうちに幕を閉じることができました。

公開講座に関しては、科学分野や芸術分野等、全部で十に及ぶ講座に、総勢二十四人の地域の方々が参加してくださいました。特に人気を博した講座は、「史料で見る秦野の歴史」で、十三人もの受講者が講師役である関口先生の軽妙な語り口に、熱心に耳を傾けていました。また、部活動体験については、同日午前中に実施された学校説明会に引き続き参加してくれた中学生もおり、総勢三十四名の中学生が、先輩である在校生や顧問の先生の指導の下、楽しそうに練習に取り組んでいました。特に強豪部である女子バドミントン部に多くの女子中学生が集まっており、今後の活躍が大いに期待されます。SOYAフェスタの参加者からは、継続実施を望む声が大多数を占めているため、検討や改良を加えながら、更により良い行事にしていきたいです。

上級学校訪問

午前の部

十一月二日、私たちは上級学校訪問にいきました。私のクラス、七組は、午前中に明治大学、午後に早稲田大学と誰もが知っているような有名大学を見学させてもらうことができました。

明治大学では、すべて自由見学で、班ごとに好きなところを周ることができました。施設がとても充実していて、特に中央図書館は、百四十万冊もの本があり、広く落ち着いた環境で快適に勉強ができそうでした。

早稲田大学では、学生自ら案内をしてくれ、実際通っている学生の意見を聞くことができました。坪内先生の銅像と握手すると英語の成績が上がるなど飽きない話とともに、くわしく説明をしてくれました。

明治、早稲田などの大学に進学できる人は少ないと思いますが、日本を代表するような大学の訪問をし、知ることで自分が行きたい大学と比較したり自分の目で見ることで、進路の意識の高めることができました。

午後の部

十一月二日、一学年は上級学校訪問に行きました。四組は東京農業大学と玉川大学を訪問しました。

午後は玉川大学を訪問し、職員の方の説明を受けたり校内見学をしました。玉川大学はワンキャンパスで、とても広大な敷地で、一時間や二時間程度ではすべての校内施設を見ることができませんでした。また、設備がすべてにおいて充実していて、働く本棚や巨大な噴水はとても印象的で、近未来を感じさせるような学校でした。

先程も述べた通り、この大学はワンキャンパスであり、さまざまな学部や学科が一つの敷地内にまとめられていることが最大の特徴で、魅力的なところであるとキャンパス内を案内してくれた方がそう語っていました。

そのほかにも、駅からとても近い立地も魅力的です。なんでも「玉川学園前」駅は学園の創始者が頼み込んでできたものらしいのです。通いやすい条件が多いので、進学候補に入れてもいいかもしれません。

一年生ドッヂボール大会

そして、全クラスの方々お疲れ様でした！

久しぶりに、外でドッジボールをしたので、次の日筋肉痛になったり、体の衰えも実感した人もいるのではないでしょうか？

修学旅行が一月に延期になってしまいましたが、今回開催したドッジボール大会で楽しい思い出が作れたと思います。先生方もジャージを着ていて、先生方の熱意や、学年全体が一つになったように感じました。今回での団結力を忘れずに、これからの学校生活を過ごしていきましょう！一月の修学旅行も、楽しみですね！

私たち二年生は、十月二十八日～三十一日に予定していた修学旅行が、延期になってしまいました。なので、十一月二日（木）五・六校時に、二年生ドッジボール大会を開催しました。天気が良く、少し肌寒い中、開会式が始まりました。そのあと、試合を開始しました。男女別、クラス対抗、トーナメント形式で行いました。

最初は、みんな寒そうでしたが、試合では寒さを感じさせないほど、元気に取り組んでいました。また、試合前には、先生も混ざってクラスで円陣を組んだりしていました。男女それぞれの試合を見ましたが、普段おとなしそうな人が意外と積極的にボールをとって当てていたり、運動神経が良さそうな人が意外と逃げ回っていたりしていました。今回のドッジボール大会で、色んな人の意外性を感じました。

ところで、話は変わりますが、みなさんは「ドッヂボール」と「ドッジボール」と「ドッチボール」どちらで呼んだり書いたりしていますか？また、どれが正解か知っていますか？正解は「ドッジボール」です。ドッジボールの「ドッジ＝DODGE」という語源は「逃げる、かわす」という意味で、避球（ひきゅう）ともいわれています。以上、豆知識でした！

さて、話を戻しましょう！ドッジボール大会の結果は、男子一位は二組、二位は六組、三位は五組でした。女子一位は六組、二位は七組、三位は五組でした。入賞したクラスの方々おめでとうございます！

PTA大会

この高校生交通安全大会は、各高校の交通安全委員の皆さんと先生方そしてPTAの皆さんと実行する大会です。毎年行われていますが、大会を実行する側に立つのは初めてだったのでとても緊張しました。

リーダー校である平塚商業高校で、月一回の打ちあわせという短い時間の中で、各校決まった役割を果たす為一生懸命準備を進めました。プログラムには、研究発表・○×クイズ・シンポジウムなどいろいろなものがありました。曽屋高校の担当はシンポジウムだった為、担当校の皆さんと台本から作り、何度も読み合わせをし、より良いものを発表できるよう頑張りました。

本番では、見ているお客さんが「分かるー」「あるあるー」などといろいろな反応をくださったのでとても嬉しく、やりがいがありました。

交通ルールは、毎日生活していく上で、誰もがかかわるものだと思います。知らないことなんてほとんどないだろうと私も思っていましたが、「そうなの！？」と思うような知らないルールがたくさんありました。知らない交通ルールや常識はまだまだあると思うので、私を含め皆さんにも交通ルールを今一度、見直してみてほしいです。

交通安全委員　杉山梨花

交通安全大会 交通安全標語

最優秀賞受賞　河村　颯

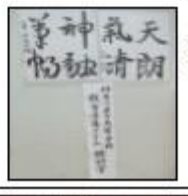
「ＳＮＳ見ながら事故してＳＯＳ」最優秀を受賞した。河村　颯さんにインタビューしました。ＨＩＰＨＯＰが好きなので韻を踏む感覚と交通安全というテーマに合った格好良い標語を作りました。現代は歩きスマホが事故の原因としてあるなと感じ、ＳＮＳをメインに考えてみようと思ったら「ＳＮＳ、ＳＯＳ、事故」が頭に浮かびました。

女子バドミントン

新人戦の地区予選ではシングルス優勝（小沢栞）ダブルス優勝（小沢栞・日野実優組）団体は第三位で県大会に出場しました。県大会では、ダブルスは県ベスト十六でした。団体戦では、ベスト八に入ったチームに二対三とあと一歩のところで敗れましたが、確実に実力がついていることが実感できた大会でした。

山岳部

現在の活動内容は、ランニングや筋トレなどのトレーニングを主に行っています。十一月には五年連続となる関東大会に出場しました。エントリーした二年の後藤匠さんと保田匠慶さんに今後の目標を聞きました。「また関東大会に後輩を行かせられるように頑張りたいです。」とのことです。

書道コンクール

・県立高等学校教育書道コンクール、奨励賞
高橋亜美（二年四組）（写真右）
渋谷七織（二年四組）（写真左）
・ＪＡはだの書道コンクール、入賞
銀賞　小嶋詩織（一年六組）
銅賞　高橋幸利（一年三組）
　　湯川彰子（三年四組）
佳作　中村佳愛（一年六組）